

★みんなが
安心して
暮らせる
まちづくり

なかお社協だより

～12月1日臨時号～

発行者
中尾校区社会福祉協議会
発行責任者 金田 裕美子
事務局 中尾市民センター内
TEL 612-3881 広報部

つくってみよう！中尾校区のふくしのまちづくり計画

わたしたちのまちの中尾校区社会福祉協議会が中心となって、地域の福祉活動に関する中期的（5年間）計画を策定中です。

今、活動している事業について「本当にこの地域に必要な事業なのか」「今のやり方、メンバーで事業が継続できるのか」「新しい課題があるのではないか」等について、みんなで学び、話し合い、今後の活動の進め方を計画し実行していくことが大事ではないかと思っています。8月の終わりに実施したグループワークでのみなさんの思いを発信します。

A グループはPTAの役員さんなど、子育て世代が中心。良いところとして、子どもたちがきちんと挨拶してくれる。小学生の登下校時、地域ぐるみで子どもを見守ってくれている。課題として、PTAの負担が大きい。不登校児童、生徒が増えている。子どもが参加できる行事が少ない。



B グループは老若男女混合チーム。良いところとして、熱い人、温かい人が多い。年配者が優しく子育てしやすい。イベントや交流を大切にする人が多い。地域会議にPTA役員が参加してくれる。課題として、地域活動に若い人の参加が少ない。自治区会加入者が高齢化して脱会していく。



C グループは経験豊富なメンバーのチーム。良いところとして、ご近所の挨拶が気持ち良い。福祉協力員として訪問すると一人暮らしのみなさんが元気。ふれあいネットワーク部会活動が活発。課題として、地域の中が見えにくい。後継者の育成が必要。男性の福祉協力員が少ない。話し相手が少ない。若者の地域活動意識が低い。



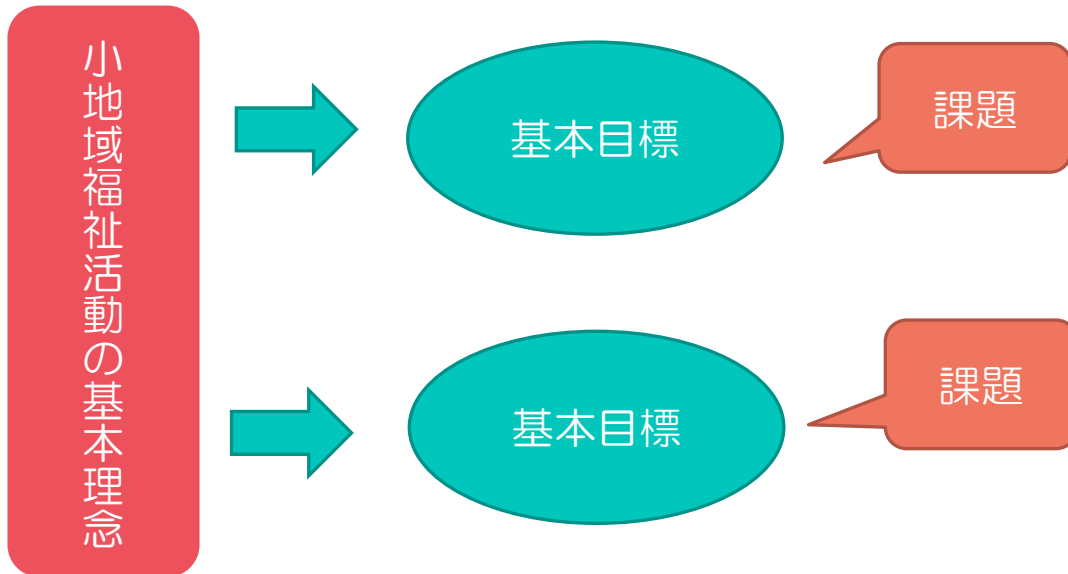
今回の学び合いを、どのように結び付けていくのか。「5年後のわたしたちのまちは、こんな福祉のまちにしたい」というゴールに向けて、グループワークでの心のこもった意見を大事にして、一年一年積み重ねていく小地域福祉計画を作り上げて、住みやすい地域に出来たらいいのではないかと思います。これをまとめた冊子は、今年度中に各家庭にお配りします。

もし、地域の福祉について、まだこんなことが気になるなどのご意見ご希望がございましたら中尾市民センター（612-3881）にお声を届けてください。

小地域福祉活動計画

体系図の「たたき台」づくりにチャレンジ

中尾校区社会福祉協議会を中心とした実施団体が何を目的にどのような活動を行っているのか、体系図をつくり、見える化を図っています。



「世代間のつながりを広げよう」って…今は3世代交流ウォーキングとかもちつき大会、センターまつりがあるね。家庭教育学級も一緒にできるといいね。



人間関係の第一歩は自己との関係である。自己受容できない人は他者受容できない。人は「あるがままの自分を認められたとき・認めるとき」相互の心がひらく。また劣等感も不安感もなくさなくてもよいし、なくならない。あって当然。道具（自分）を使いこなすのが名人！

～西南女学院大学教授 中島 俊介氏の現任福祉協力員研修資料参照～